

主日礼拝

2024年11月10日
午前10時30分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」(ローマの信徒への手紙 5:5)

頌栄 26「グロリア」



グロリア グロリア グロリア ちちとみ子に
グロリア グロリア グロリア せいなる霊に

リタニー 「いのちの道」

司式者：神さま、わたしたちの前に道があります。
 みんな：まっすぐな道、曲がった道、
 ならかな道、でこぼこの道。
 司式者：神さま、わたしたちの前に道が広がります。
 みんな：のぼってゆく道、下^{くだ}ってゆく道、
 近道やまわり道。
 司式者：どんなに辛くても、歩かなければならない道があります。
 みんな：それは、わたしたちのいのちの道。
 司式者：「あなたを決して見捨てない」と、
 神さまは言われます。
 みんな：「いつもあなたがたと共にいる」と、
 イエスさまは言われます。
 司式者：どうぞ、共に歩いてください。
 みんな：あなたにつながる、いのちの道を。
 一緒に：イエスさまの御名によって、アーメン。

賛美 1-3,4「主イエスよ、われらに」

Herr Jesu Christ, dich zu uns wend
詞：Wilhelm II, 1598-1662
HERR JESU CHRIST
曲：Cantionale Germanicum, 1628



3 われ、みかおあおぎ、よろこびにみちて、
 4 ちちと子とせいれいひとりのみかみに、
 主をたたえうたわん。「主はせいなるかな。
 ほまれとみさかえとわにあれや、アーメン。

3 われ、み^か顔あおぎ、喜^{よろこ}びに満ちて、 4 父^{ちち}と子^こと聖^{せい}霊^{れい} ひとり^{ひと}のみ神^{かみ}に、
 主^{しゅ}をたたえ歌^{うた}わん。「主^{しゅ}はせいなるかな」。 ほまれとみ^み栄え とわにあれや、アーメン。

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
 ねがわくは み名をあげさせたまえ。
 み国を来らせたまえ。
 みこころの天になるごとく
 地にもなさせたまえ。
 我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
 我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
 我らの罪をもゆるしたまえ。
 我らをこころみにあわせず、
 悪より救い出したまえ。
 国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
 なればなり。
 アーメン。

賛美 32「キリエ・エレイソン」



キリエ エレ イソン キリエ エレ イソン
 しゅよあわれみを しゅよあわれみを
 キリエ エレ - - イソン
 しゅよあわれ - - みを

聖書 創世記 13：1～18 旧約(新共同訳)P16～P17

1 アブラムは、妻と共に、すべての持ち物を携え、エジプトを出て再びネゲブ地方へ上った。ロトも一緒であった。
2 アブラムは非常に多くの家畜や金銀を持っていた。3 ネゲブ地方から更に、ベテルに向かって旅を続け、ベテルとアイとの間の、以前に天幕を張った所まで来た。4 そこは、彼が最初に祭壇を築いて、主の御名を呼んだ場所であった。

5 アブラムと共に旅をしていたロトもまた、羊や牛の群れを飼い、たくさんの天幕を持っていた。6 その土地は、彼らが一緒に住むには十分ではなかった。彼らの財産が多すぎたから、一緒に住むことができなかったのである。7 アブラムの家畜を飼う者たちと、ロトの家畜を飼う者たちとの間に争いが起きた。そのころ、その地方にはカナン人もペリジ人も住んでいた。

8 アブラムはロトに言った。
「わたしたちは親類どうしだ。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう。9 あなたの前には幾らでも土地があるのだから、ここで別れようではないか。あなたが左に行くなら、わたしは右に行こう。あなたが右に行くなら、わたしは左に行こう。」

10 ロトが目を上げて眺めると、ヨルダン川流域の低地一帯は、主がソドムとゴモラを滅ぼす前であったので、ツォアルに至るまで、主の園のように、エジプトの国のように、見渡すかぎりよく潤っていた。11 ロトはヨルダン川流域の低地一帯を選んで、東へ移って行った。こうして彼らは、左右に別れた。12 アブラムはカナン地方に住み、ロトは低地の町々に住んだが、彼はソドムまで天幕を移した。13 ソドムの住民は邪悪で、主に対して多くの罪を犯していた。

14 主は、ロトが別れて行った後、アブラムに言われた。
「さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。15 見えるかぎりの土地をすべて、わたしは永久にあなたとあなたの子孫に与える。16 あなたの子孫を大地の砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれないであろう。17 さあ、この土地を縦横に歩き回るがよい。わたしはそれをあなたに与えるから。」

18 アブラムは天幕を移し、ヘブロンにあるマムレの榿の木のところに来て住み、そこに主のために祭壇を築いた。

賛美 361 「この世はみな」

This is my Father's world
詞：Matthew D. Babcock, 1858-1901
TERRA BEATA (TERRA PATRIS)
曲：オットー・ハインリッヒ

1 この世はみな 神の世界、
2 この世はみな 神の世界、
3 この世はみな 神の世界、

あめつちすべてが 歌い交わす。
鳥の音、花の香 主をたたえる。
岩も木々も 空も海も
朝日、夕日 空に映えて
み神のみわざを ほめたたえる。
み神のみわざを 語り告げる。

悪魔の力が 世に満ちても、
わが心に 迷いはなし。
主こそがこの世を治められる。

説教 「見上げてごらん」

賛美 458 「信仰こそ旅路を」

My faith, it is an oaken staff
詞：Thomas T. Lynch, 1818-1871
THE STAFF OF THE FAITH
曲：スイス民謡

信仰こそそなたを びらきを みちびくつえ、
よわきをつよむる ちからなれば、
こころいさましく たびをつづけゆかん。
おそるべきもこの世になし。

- | | |
|--|---|
| 1 信仰こそ旅路を みちびく杖、
弱きを強むる 力なれば、
こころ勇ましく 旅を続け行かん。
おそるべきものは この世になし。 | 3 主イエスの足跡 たどりゆけば、
けわしき山路も 越え行くを得ん。
疲ることなく、迷うこともなし、
ひたすら御神へ 近づきゆかん。 |
| 2 わが主をかしらと 仰ぎ見れば、
ちからの泉は 湧きて尽きず。
恵みふかき主の み傷示されて
わずかに残る火 ふたたび燃ゆ。 | 4 信仰こそそわが身の 杖と頼まん、
炎も剣も なにかはあらん。
代々の聖徒らを 強く生かしたる
いのちの聖霊 与えたまえ。 |

派遣

- 司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏

司式 福原 之織
説教 福山 裕紀子牧師
(廿日市教会)
奏楽 高橋 孝子

※お立ちになるのが困難な方は、座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。